

青山同窓會報

《発行所》

青 山 同 窓 会

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町2-635

新潟県立新潟高等学校内

TEL 025-266-5268

FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長 谷 川 義 明

《印刷所》

株式会社第一印刷所

〒950-8724 新潟市中央区和合町2-4-18

TEL 025-285-7161

FAX 025-282-1776

母校創立百二十周年

記念事業を終えて

青山同窓会会長

長谷川 義明 (61回) 53卒



昨年は同窓会の皆様の絶大なご協力を頂き、無事に母校創立百二十周年を記念する諸事業を遂行することが出来ました。厚く感謝申し上げます。

最大の懸念事項であった目標額3千万円の寄付金の募集につきましては、大きく目標を上回る3千6百万円余のご寄付を頂くことが出来ました。同窓の皆様、熱い母校愛の賜物であり、深く敬意を表しますと共に現役

のPTAの方々からも頂きましてご協力に深く感謝申し上げます。次第です。

実際、三千を越える実に多くの同窓の個人からのご寄付をいただきましたが、更に同期の会でまとめて頂いた方々、クラブ活動の同窓でまとめて頂いた

方々あるいは企業内の同窓単位でまとめて頂いた方々など団体としてご寄付を頂いた方も多数ありました。さらに同窓生が役員をしておられる企業などからも多額のご寄付を頂くことが出来、結果として目標を大きく上回るご寄付を頂くことが出来ました。まことに有難うございました。

10月20日にはご来賓各位を始め全校生徒、教職員、PTA、

同窓生など多数の出席のもとに記念式典が市民芸術文化会館コンサートホールにおいて静粛に行われました。

ご寄付を基にしたの記念事業としては、「21世紀型学習環境の整備」として各教室に電子黒板を備え、プロジェクターによって教材を映像に映し出して授業を行うという、新しいシステムの導入を全国的にも先駆けて行うことが出来ました。現役の教育の一層の充実に貢献できるものと期待いたしております。

記念事業の一つとして「青山百二十年史」の編纂出版事業があります。百年史を編纂して以来年数も経過しており、ここで年史をまとめておくことは母校の歴史を記録する上で大変意義のあるものと考えたものであります。この20年の間に通信制課程の閉鎖などもあり歴史をまとめる良い機会となりました。百年史にも若干の補正を加えるなどの作業も行われ、歴史の記録

(次ページへ続く)

◇ 青山学術文化講演会 ◇

今年も新潟高校卒業生で、各界でご活躍の方々から講演をして頂きます。皆様のお越しを心からお待ち申し上げております。

○開催日 平成 25 年 11 月 16 日 (土) 13:30 ~ 16:00

○会 場 新潟県立新潟高等学校 視聴覚ホール

・駐車場はありません。

・スリッパの数が限られています。なるべく「上履き」をお持ちください。

○定 員 400 名 (一般市民の方々にも聞いていただきます)

○参加費 無料

○講演予定者

渡部 終五さん (74 回卒)

北里大学海洋生命科学部教授、東京大学名誉教授、日本水産学会会長

演題「東日本大震災からの沿岸地域の再生の課題—水産業を中心にして」

東日本大震災では東北地方の市町村、とくに水産業を社会基盤とする沿岸地方は大きな被害を受けた。その復興、再生における問題をまとめてみる。

齋藤 正行さん (76 回卒)

新潟・市民映画館シネ・ウインド代表、安吾の会世話人代表

演題「安吾とシネ・ウインド」

我らが大大先輩の坂口安吾に触発されて、当時、無謀にも「新潟・市民映画館シネ・ウインド」立ち上げ、奇跡的にも二十八年間も続いている秘密を吐露したい。本邦初公開。

○お申し込み方法

当日、直接お出でください。当日は満席になり次第締め切らせていただきます。

○後 援 新潟市教育委員会、新潟日報社

○お問い合わせ

青山同窓会事務局 電話・FAX 025-266-5268

E-mail niigata_aoyama@yahoo.co.jp

として更に充実したものになっていると思います。

同窓会名簿の作成は10年ごとに行われて来っていますが、今回は特に個人情報保護について慎重な対応が求められる世情の中での作業となりました。幸い同窓会員の中には法曹関係の会

員も多く居られ、手続きなど慎重な対応をして頂きました。出版についても情報保全のノウハウを持った同窓の企業に担当していただくことが出来、万全を期することが出来たと思っております。

祝賀行事についても大変有意義な企画が出来ました。幸い先年に世界的にも評価されているパイプオルガンのパリシヤルトル大聖堂コンクールにおいて、見事グランプリを受賞された第11回卒業の石丸由佳さんに記念演奏をして頂くことが出来ました。祝典曲に加えて第79回卒の上越教育大学教授後藤丹氏の編曲による「百里流れて」という母校の校歌や応援歌を組み合わせた新曲も披露されて盛り上がりしました。

平成25年 青山同窓会新年会報告

阿部 素子 (94回) 86卒

平成25年2月14日(木)、ホテルイタリア軒で青山同窓会新年会が開催され、平日にもかかわらず、百名以上の参加がありました。

始めに、長谷川義明同窓会長(61回)から挨拶があり、百二十周年の募金が目標を超えた四千円近くになり、そのおかげで本校のICT化が進められたこと、近く百二十周年記念誌が発行されるので期待してほしい、ということなどが述べられました。

続いて、敦井栄一副会長(69回)のご発声で乾杯となり、その後、衆議院議員

長をお務めです。講演の詳細は青山同窓会報の今号に抄録掲載されて居りますが第7回卒業の會津八一氏を語るにふさわしい後輩であると思います。

以上百二十周年の諸事業についての報告がありますが、これら諸事業の企画実施に向けて

学校関係者、PTA、同窓会からの記念事業実行委員をお引き受け頂きました各位をはじめ、記念事業の施工、資料調査、原稿執筆などご協力を頂いた多くの皆様に深く感謝を申し上げます。

次に、市川亮副校長より、本校の百二十周年事業に対する協力への感謝が述べられ、寄付金によって全普通教室に導入された電子黒板の活用の様子、今年度行われた大学推薦入試の結果報告がされました。

当日は、バレンタインデーということで、イタリア軒からチョコレートサービスのもあり、90代の大先輩がたから20代の若い方がたまで、世代を超えて親交を深め、楽しい歓談が続きしました。

最後に、石崎さんを含めて、97回栗原洋志さん、桑野一美さん、関博司さんのリードにより、参加者全員の丈夫の斉唱があり、風間士郎副会長(64回)の締めで、盛況だった同窓会新年会がお開きになりました。

東京青山同窓会

新人(121回生)歓迎会・講演会

校内幹事 本間 茂 (88回) 80卒

6月14日(金)、ANAインターコンチネンタルホテル東京で、標記の会が開催されました。新潟からは長谷川義明会長(61回)、富山修一幹事長(75回)、旧3年担任の佐藤真先生(6組)、宮澤雅樹先生(7組)、校内幹事本間(3組)の5名が参加しました。

猪口孝東京青山同窓会会長(70回)の挨拶、長谷川会長の来賓挨拶に続いて、新潟県副知事、森邦雄さん(75回)が「にいがた暮らしのススメ」と題して、講演されました。新潟を離れたばかりの新人たちは、呪縛から解放されて、のびのびと新生活を送っているだろうこ



平成26年 新年会のお知らせ

来年の新年会は平成 26 年 2 月 21 日 (金)を予定しております。詳細は次号会報に掲載いたします。



とや、機械産業のレベルの高さにも及び、学生たちが将来、積極的な考え方で新潟で暮らすことを提案されました。

講演会に続く「新人コール」では、21名の新人たちは、自分の名前が呼ばれると、凛とした声で返事をしていました。その後、参加した新人を代表し、小林巨海さんが感謝の言葉を述べました。いろいろの年齢の様々な立場の同窓生たちが、和やかに歓談している姿が印象的であつたそうです。また、新潟高校や青山同窓会との関係を、松葉かたどる校章になぞらえて、根にあたる部分が基盤である新潟高校、松葉が自分たち新人、松の頂点が同窓会であると話し、頼れる先輩の存在が大きな支えとなると感じているようにしました。

第2部の懇親会は、栗林貞一さん(59回)の乾杯のご発声で始まりしました。楽しい懇談の間もあつという間に過ぎ、恒例の校歌斉唱、応援歌合唱となりました。丈夫の指揮は、小田健太郎さんと神藏壮大さんが務めました。新潟以外の地で、世代を超えた同窓生総勢90名で歌う丈夫は、新人たちにとって新鮮であり、学生生活を励ましてくれるものとなつたことでしょう。

PTA会長あいさつ

大野 潮子 (92回) 84卒



今年度、PTA会長を拝命致しました、大野潮子と申します。なにもぶんに、このような大役を仰せつかったのは初めてのことで、改めて責任の重さを感じております。一年間、何卒宜しくお願い申し上げます。

境の一層の充実が図られたことは、子どもたちの学力向上に繋がるものと期待をしております。さて、今年度は、北信越地区高等学校PTA連合会研究大会が、新潟市で開催されます。「夢から志へ」をメインテーマに、子どもたちのたくましく生きる力を育むために、PTAのあるべき姿を新潟から発信するものです。

近い将来、社会に羽ばたいていく子どもたちにとって、生きる力、すなわち、草間校長先生がよく仰るタフな心身や、自分で課題を見つけ、自ら学び考え抜き、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を養うこと、また、自律や協調性、思いやり等、豊かな人間性を育むことは非常に重要です。「自主自律」の精神のもと、各々が目指す分野で活躍できる人材になるための基盤を作るべく、充実した学校生活を送れるよう、先生方と連携を図り、また、同窓会の皆様からの御支援を頂きながら、精一杯取り組んで参りたいと存じます。

最後となりますが、青山同窓会の今後益々の御発展と同窓会

の皆様の御健勝を祈念致しまして、御挨拶とさせていただきます。



百二十周年記念講演会 「會津八一の美学」 講演要旨

大阪大学名誉教授
新潟市會津八一記念館館長

神林 恒道 (65回) '57卒



三位一体のものであり、その全人的な表現としてあつたのだ。

最後の文人とも称される會津八一については、和漢の学に通暁した碩学というイメージがある。ところが八一が早稲田に入学したのは、シェイクスピア研究者で英文学の泰斗、坪内逍遙に惹かれてのことだった。卒業後、上越の有恒学舎に勤務するが、逍遙の推薦で早稲田中学の英語教師として呼び返されており、その英語力は折り紙つきである。驚くべきは、八一の該博な東洋古典についての知識は、これすべて独学によるものだったことだ。

その人間像を理解するための重要なかぎとなるのが、古都奈良との出会いである。八一が初めて奈良を訪れたのは、明治四十一年、まだ有恒学舎の教師をしていた二十七歳のときのことである。この旅の目的は当初は、天皇の寵愛を失つて猿沢の池に身を投げた采女のとをたずねるという、感傷旅行にすぎ

なかった。だが大和の古寺をめぐるうちに、次第に飛鳥天平の古代文化に引き込まれていった。そのおりに短歌二十首を詠んでいる。歌集『南京新唱』の序には次のように述べられている。「われ奈良の風光と美術を酷愛して、其間に徘徊することすでにいく度ぞ。遂に或は骨をここに埋めんとさへ思へり」と。

八一の古代への憧れ、そして歌人としての活動は、このときに始まったものではない。年若くして八朔郎の俳号で知られた俳人であり、また和歌も手がけていた。当時、詩歌の革新運動を展開していた子規の思想に共鳴して、根岸庵を訪ねたことがある。そのおりに子規に「我が郷の良寛禪師を知り玉ふや」と問うたというエピソードがある。今日でこそ良寛の名は高いが、この時期、良寛の万葉調の歌を知る者は限られていた。後に八一は自らを、友人の相馬御風と共に自らを良寛の偉大な人間性の発見者をもつて任じている。八一はすでに少年時代に、良寛を通じて記紀万葉の世界への憧れをいだいていたのだ。そのそこはかといひ憧れから、一気に奈良を「酷愛」するにいたった契機が、あの最初の奈良訪問だったのである。

八一を知るためのもうひとつ

の重要な事件がある。それはわずかな期間だったが、早稲田時代のラフカディオ・ハーンとの火花の散るような出会いである。八一は良寛を通じて記紀万葉の世界を知つたように、現代に生きるギリシャ人であるハーンを通じて、西欧の古典的世界への憧憬をかき立てられたのである。早稲田卒業後まもなく、八一は友人に次のような手紙を寄せている。

「Humanity as a whole を美とも真とも神ともして、個人に於ける人間性の完成完備を希求するのが、僕の半生の主張である。僕が希臘生活をよるこぶのも、古事記の神代の巻を愛するの、此の故である。僕が十九世紀の文明に対してあきたらぬところあるは、僕の見解が氷の如く冷かなるが為めではない。分業主義の余弊として deformity にみちみちたる此世紀のあはれなる光景に対する悲憤の熱涙が、往々にして皮肉家の冷嘲と混同さるるのである。」

文明の名のもとに、巨大化した社会という機械の部品になりはて、本来あるべき理想の人間性が見失われている時代への痛烈な批判である。二十一世紀の現代においても、なおこの言葉は通用する。この歪んだ社会の現状を乗り越えて、全人的理想

に到達する道を示したのが「学規」である。それはまた八一にとって、人生をいかに生きるべきかという自らに課した指針であり、決意表明だったともいえる。

おほてらの
まろきはしらの
つきかげを
つちにふみつつ
ものをこそおもへ

この歌において、八一の古代憧憬はより普遍的な広がりをもつ、古典主義の理念へと高められたのだということが出来よう。この永遠の間ともいうべき時点において、八一にとつて奈良はすでにギリシャであり、ギリシャは奈良となつていたのである。

「酷愛」する奈良をより深く知ろうとして、八一の本格的な美術史研究が始まる。ちょうどこの頃、八一は早稲田大学文学部講師となる。担当は東洋美術史の講座であつた。続いて同文学部教授に昇任する。古都奈良の風光と美術への感動を教え子たちと共有しようとして、八一は毎年のように学生たちを引率して、奈良大和路の古寺をめぐり、その現場で飛鳥、天平の美術の素晴らしさを説いたのである。

千年の時を超えてそこにたたずむとき、その感動のため息は自ずと歌となつた。それが八一の「奈良歌」である。これはまた、はるか奈良を離れていても、口でとなえればたちまち古都のイメージを眼前に髣髴として思

い浮かべることが出来る呪文でもあった。「ここにして詠じた歌は、吾ながらに心ゆくばかりなり。われ今これを誦すれば、青山たちまじり、緑樹叢に迫りて、恍惚として、身はすでに旧都に在るが如し」と。ために自ら「舌頭千回」と称したように、歌の調べを練りに練ったのである。八一にとつての歌は、一音たりといえどもゆるがせにすることは出来ないものだった。

生前、奈良に己の歌碑が建立されるにあたって、八一は自ら筆を揮っている。酷愛する奈良を詠じた歌が、余人の筆で詠まれることなど許し難いことだったのだ。「一人にて遠き道を歩きながら、声低くこれを唱ふるとき、わが歌の、ことに吾に妙味あるを覚ゆ」という、この奈良歌は漢字交じりを排して、仮名文字による一字一音の表記による、独自の「放ち書き」というスタイルでしるされている。

思うに會津八一の美術史研究そして歌と書は一体のものであり、共に酷愛する奈良へのオマージュであるというべきであろう。「ここにこそ八一の美意識、そして『美学』の真面目が認められるのである。人はときとしてその生き方をもって、そこに自らの哲学があると語ることが

ある。とすれば、會津八一はその美学を生きたのだと言えるのではなかろうか。

奈良は千年の古都である。平安京への遷都後もなお神聖な仏都であり続けた。だが近代に入つて、廃仏毀釈という思いも掛けぬ災厄がこの仏都を襲つた。とりわけ奈良において、その被害は甚大であつた。八一が初めて奈良を訪れたのは、この無残な破壊の跡がまだ生々しく残されていた時期であつた。この間、ようやく明治政府も伝統文化財の重要性に気づき、積極的な保護政策に取り組みはじめていた。これを主導したのが、フェノロサと岡倉天心であつた。この時点での奈良は、古美術研究という一部の専門家の関心の対象でしかなかった。美術史家としての八一は、この分野での研究者の第二世代に当たる。

だが八一は、それ以上の贈り物をしたのだ。それは奈良を愛した八一ならではの、なし得ないものだった。古都奈良の伝統文化を広く世の人々に知らしめ、それまでは宗教的礼拝の場ではなかった奈良を、改めて「美の礼拝」の場へと開く、最初の契機となつたのが、和辻哲郎の『古寺巡礼』だった。これと並んで、飛鳥・天平の美をいまに

伝える、みほとけへの賛歌によつて、奈良を日本人の永遠の心の故郷に高めたのが、會津八一の歌集『鹿鳴集』だったのである。戦中、学徒動員で戦場におもむく若者たちが今生の思い出に奈良を訪ねたおりに、懐かししていたのが和辻の随筆と八一の歌集であつたという。

八一は奈良を愛した、酷く愛した。愛するものをより深く知ろうとして美術史研究の道に入った。奈良の風光と美術を前

コラージュ風幻想曲

《百里流れて》の吹奏楽版

作曲家・上越教育大学大学院教授

後藤

丹 (79回)

71卒

コラージュ風幻想曲《百里流れて》は、昨年の10月20日に行われた創立百二十周年記念のパイオルガン・コンサートのために私が作曲し、同窓の後輩である石丸由佳さんによつて初演された作品です。新旧二つの校歌と八つの応援歌を立体的に組み合わせ、一種の音楽によるミニメントとも言えるでしょう。

まず、足鍵盤による保続音上に「天は晴れたり」と「嗚呼、青陵に精気あり」のメロディが絡み合いながら始まり、やがてさまざまな応援歌が呼応しながら登場。一通り盛り上がったところで旧制の校歌が朗々と二度繰り返され、その間には「まずらお」が響き渡ります。短いカデンツァを挟み、いよいよ「百里流れて」のメロディが力強く奏されますが、最大のクライマックスはその後で新旧二つの校歌が対位的に組み合わせられ、同時に鳴り響く部分。ここで旧制中学と新制高校の融和を象徴しようと考えました。

吹奏楽部の顧問だった児玉悟先生がこの曲を聴いて興味を持たれたらしく、記念祝賀会の席で早速、吹奏楽へのアレンジを頼まれました。

ただ、私はその翌週から5ヶ月ほど日本を離れることになっており、編曲はウィーン9区のアパートメントで行われまして、パイオルガンは管に空気を送って音を出す仕組みが管楽器と一緒なので、仕事は比較的小スムーズに進んだように思います。ただ、元来、息をしないでも音を長く伸ばせるオルガンのために書いた曲なので、吹奏楽のメンバーが部分的に呼吸困難に陥ったかもしれない。実は吹奏楽版が初演された3月には、まだウィーンに滞在していたため、その演奏に立ち会うことができなかったのです。様々な楽器の組合せで、きつとオルガン

事務局よりお知らせ

百二十周年記念事業として、平成24年6月に「同窓会名簿」が発刊されました。この名簿作成を委託していただきました株式会社第一印刷所様より、名簿データが保存されたコンピュータ一式が青山同窓会事務局に届けられました。1月18日、母校同窓会室にて贈呈式を行い、第一印刷所堀一社長(75回)より、目録と品物が長谷川義明青山同窓会会長(61回)に手渡され、無事設置されました。

校内幹事 櫻井 麻利子 (94回)

86卒



左より富山修一幹事長(75回)、第一印刷所堀一社長、長谷川義明会長、市川亮副校長、櫻井(校内幹事)



120周年祝賀会料理



120周年記念祝賀会の様子

よりもさらに色彩豊かに響いたのではと想像するのみ。もし、再演の機会があれば是非聴きに駆けつけたいと思っています。

新潟県立新潟高等学校創立百二十周年記念事業収支中間報告

平成 25 年 3 月 18 日現在

収入の部	予 算	決 算	差 異	備 考
同窓会寄付金	25,000,000	25,058,920	58,920	全日制、通信制
P T A 寄付金	5,000,000	4,197,000	△ 803,000	保護者、現職員、旧職員
法人寄付金	0	6,100,000	6,100,000	
団体寄付金	0	1,625,549	1,625,549	
祝賀会会費	0	2,320,000	2,320,000	
祝賀会祝儀	0	110,000	110,000	
青山百二十年史収入	5,000,000	0	△ 5,000,000	青山百二十年史
雑収入	0	4,697	4,697	預金利子
収入総額	35,000,000	39,416,166	4,416,166	

支出の部	予 算	決 算	差 異	備 考
記念事業費	27,800,000	20,653,242	△ 7,146,758	
教室の I C T 化	19,600,000	15,699,915	△ 15,085	電子黒板、プロジェクター、スクリーン、コンピュータ等
教室窓の遮光フィルム		3,885,000		30 教室分（工事費込み）
周辺機器、教材作成用機材	1,000,000	956,567	△ 43,433	断裁機、スキャナー、パソコン、特別教室用電子黒板ユニット
青山百二十年史	7,000,000	0	△ 7,000,000	
青陵特別号補助	100,000	100,000	0	青陵特別号
予備費	100,000	11,760	△ 88,240	
記念行事費	2,200,000	4,219,177	2,019,177	
記念式典	500,000	637,052	137,052	会場費、看板等
祝賀会	500,000	2,260,725	1,760,725	宴会料等
講演者、演奏者謝礼	1,000,000	947,455	△ 52,545	謝礼、交通費
諸費	200,000	373,945	173,945	式典パンフレット、講演会資料印刷代等
総務費	4,500,000	3,710,034	△ 789,966	
印刷費等	1,600,000	1,974,650	374,650	募金払込取扱票、封筒、趣意書、百二十年史ご案内はがき等印刷代、募金振込手数料、祝賀会振込手数料、料金後納利用代金等
消耗品費	600,000	26,240	△ 573,760	封筒代等
郵送料	2,300,000	1,709,144	△ 590,856	趣意書、募金振込用紙等送料
予備費	500,000	0	△ 500,000	
支出総額	35,000,000	28,582,453	△ 6,417,547	

収支差額	0	10,833,713	10,833,713	
------	---	------------	------------	--

平成 25 年 3 月 18 日
上記の通り相違ないことを確認致します。

創立百二十周年記念事業実行委員会

監事 渡辺 国夫
監事 加藤 佐城
監事 和田 由美子

★『青山百二十年史』発刊★

創立百二十周年記念事業の一環として企画された『青山百二十年史』ですが、お蔭様で 3 月末に刊行することができ、4 月上旬にご予約いただいた同窓の皆様にお送りしたところです。

同窓生にだけお分けいたしておりますので、これから希望をされる方は、同窓会事務局へご連絡ください。頒価は 1 万円（送料別途）となっております。

★創立百二十周年記念式典の D V D のご案内★

去る平成 24 年 10 月 20 日に挙行されました、記念式典・講演会・演奏会・祝賀会の模様を記録した D V D が完成いたしました。

2 枚組で 2,500 円（送料別途）でお分けいたします。ご希望の方は同窓会事務局へご連絡ください。

★青山同窓会 百二十周年名簿発刊★

会員皆様のご協力により平成 24 年 6 月末に発行となり名簿購入希望者及び広告掲載をご協力いただきました方々へ発送させて頂きました。大変ありがとうございました。

これから名簿購入を希望される方は、同窓会事務局へご連絡宜しくお願い致します。部数の可能な範囲で送付させて頂きます。

また、会員名簿には、約 39,000 名の名簿が掲載されております。取扱いにはご留意下さい。

新手「オレオレ詐欺」にご注意ください

新潟東警察署から情報提供があり、新潟高校卒業生宅を対象とした、新手の「オレオレ詐欺」の被害が発生していることが判明しました。今後もこのような危険性のあることをご理解いただき、ご家族にも周知していただき、被害の未然防止に努めてくださるようお願いいたします。

同 窓 生 訪 問

新潟県労働金庫 理事長

江花和郎さん(79回) 71卒を訪ねて

会報編集委員

望月

智美

(106回)

98卒

五十嵐悠介

(107回)

99卒

新潟県内で、敷居を低く開口を広くし、多くの働く人に手を差し伸べている金融機関・新潟県労働金庫。今回は理事長を務められている第79回卒業生・江花和郎さんをお訪ねしました。

江花さんは1953年生まれ。高校生の時は古町で学校の仲間たちと映画、アメリカ・ニューシネマやフランス・イタリア映画などの洋画を中心に年100本以上ご覧になられていたそうです。折しも学園紛争が盛んな時期でしたが、高校・大学ともにノンポリ(学生運動に興味が無い学生)として学生時代を過ごされました。



毎日だったそうですが、その熱意が伝わっていたのでしよう、今でも大人になられた当時の教え子たちとは親しくお付き合いをされています。

その後、新潟県高等学校教職員組合の専従役員を経て、1989年に結成された連合新潟に出向。以降22年間、連合新潟の役員を務められました。就職してから2005年に連合新潟の会長に就任されるまでの人生は一本道ではなく、数多くの分道があったそうです。「まず分岐点に立たないこと。それ自体が既に1つのチャンスだった。分岐点に立たないこともあるんだから。そして決断をする時に、家族の支えがあったことも大きかった」と来し方を感慨深く思い返していらつしやいました。

連合新潟では様々な新しいチャレンジをされてこられたそうですが、一番印象に残っているのは2008年、洞爺湖サミットに伴い、新潟でG8労働大臣会合が開催された時のことでした。当時江花さんは連合新潟の会長に就任されて2年目。開催地の責任ある立場の人間として何かできないかと考え、ILO(国際労働機関)で提唱されている戦略目標「Decent work for all」(全ての人に働

き甲斐のある人間らしい仕事を)を広めるためのフォーラムを新潟で開催することに尽力されました。このフォーラムには後に労働界出身として初めてILO事務局長となるガイ・ライダー氏など世界の労働界のトップにある人たちが多数参加され、彼らが一般の参加者からの質疑に直接答えるという、非常に有意義なものとなりました。最後に在校生へのメッセージをお願いしました。「若い人たちはぜひ地元・新潟に戻ってきて、故郷を良くしてもらいたい

同 期 会 報 告

「三水会」の挽歌

坂井 恒雄 (56回)

48卒

「まあだだよ 鬼を待たせて
八十二」

この川柳は、平成25年元旦に届いた、三水会の荒川君からの賀状である。

56回は、毎年同期会を開いてきたのだが、寄る年波には勝てず、昨年をもって終了ということになった。

三水会というのは、毎月第3水曜の6時から「生粋」でやっている同級の飲み会で、昭和5・

い。思いを持った若者が地域に増え、地域がそのような若者を育てる。失敗して迷惑をかけてもいいんです。それが人間関係の絆を強くし、縁を深めていきます。失敗を恐れず、思いを持て大きく成長してください。」

今回「自立した持続可能な地域社会を創る」を座右の銘とされている江花さんから、新潟の持つ可能性、新潟の目指すべき方向など、紙面に書ききれないほどの熱い熱いお話を伺う事が出来ました。本当にありがとございました。

6年生生まれの82歳、11名である。65歳の時に「毎月やろう」ということで始まったが、早いものでもう17年が過ぎた。会場も、3、4ヶ所かわって、結局「生粋」に落ちついた。最初40名ほどだったが、何名かが病気になるたり鬼籍に入ったりで、とうとう11名になってしまった。この歳になるとよほど楽しいものでなければご免だし、まして毎月となると尚更だ。それにしても



時事問題や昔の思い出、病気の話などで一時間半があつという間に過ぎてしまう。最後は校歌「玲瓏の天」を斉唱するのだが、嬉しいことは、女将が「門前の小僧」よろしく覚えてしまったことだ。

私の場合、校歌を歌うと死んだ友が臉に浮かぶ。不謹慎のようだが、校歌は「三水会」の挽歌なのだ。そんなことをいったら鬼の使いがまた来たみたいだ。

東京MUZO会新年会

高城 英雄 (60回) 52卒

ほとんどが傘寿を迎えた記念すべき新年会が31名の参加者で1月22日(火)正午から東京港区新橋にある老舗中華料理店「新橋亭」で行われた。新橋亭は戦後間もなく夜来香(イエライシャン)という名のショウレストランとして賑わっていたので、昭和一桁の人は知っている人も多いと思う。

小山四雄と東京マンドリーノが専属で出ていて上がり下がりするエレベーターステージが売りだったような記憶だ。東京MUZOの発足は昭和45年位だったと思うが、最初は幹事持ち回りでいろいろな場所で行っていた。20年前から新年会は、毎年この場所(1月第3週の火曜日、正午から行われることになっている。全員の記念写真撮影後、今年傘寿ということ)で、会長の池浦厚司君の音頭で参加者の「健勝」に乾杯をして

上がった。アトラクション終了後、世話役高城英雄の司会で一人ひとりの近況報告が始まった。一昨年3・11で被災した仙台の片岡真君、初参加の笠原功君、久しぶり参加の宗村健吾君、弁護士の小池健治君、サッカー部の小林五郎君、中国語が堪能な西村満穂君、奥さんを3回も貰った佐藤孝君、建設省の事務次官をしていた高橋進君、2年続いて新潟から出席してくれたバレー部で活躍した橋本行雄君などの元気な発言が続いた。

美術部で活躍した金山常吉君が傘寿を迎えた仲間、手造りのMUZO銘入りの特別なお守りを配ってくれた。

最後に、当日の欠席者、池端哲君、坂井丈夫君、松尾克己君と昨年の物故者山田宏君、五十嵐康男君、山崎良一君たちを確認し、次第に物故



者が増えてくるのに皆、一抹の寂しさを覚えた。

暫しの沈黙後、誰とはなしに元気を鼓舞するように応援歌を歌おうと声が上がった。2時半過ぎから応援歌や校歌を斉唱し、又、来年元気で再会することを約束して散会した。

「大橋禎助先生の卒寿と同期の傘寿を祝う会」

小杉 秀一 (61回) 53卒

昭和28年(1953年)3月、新潟高校を卒業して、アツとい間に60年の歳月が過ぎました。毎年恒例の新年会(1月30日於オークラ)の準備をしているうちに、大橋先生が元気なうちにもう一度と、この度の企画となりました。

ときは4月25日(木)午後1時より3時30分、ところは西大畑の行形亭。趣向が平日の日中、日本庭園を愛でながらの交歓は、これまた温泉旅館・宴会宿泊の5年毎開催のパターンをやめて、全て新しい試みとなりました。

また、長谷川義明代表世話人の発案で、新潟芸妓による相川音頭の祝舞など、地場産の古町芸妓へのバックアップという、ささやかな



て、大挙 16 名の参加でした。二次会は駅前と古町と 2 組に分かれ、真昼の宴はこのほか楽しい集いとなりました。

この度の幹事反省会の話題にあげられたのは、「はじめて行形亭に来られてよかった」と喜んでくれた仲間が多かったことと、「それにも増して行形亭の大女将・若女将の心からのおもてなしと、さりげない心配りの

数々は流石でありました」とのことでした。

飲みたくてしょうがない江口新潟代表幹事と、それに合わせる調子者がいて、この数年間なんだかんだと飲み続けての幹事会ではあるが、夫人同伴の会を不定期ながら設営して心配りも怠っていないつもりです。

「青山 61 回卒業生傘寿記念有志ゴルフ会」

ゴルフ幹事 加藤 榮一 (61 回) 53 卒

今回の 80 歳傘寿祝宴を機に東京、仙台からも出席したゴルフ愛好者が、折角集まったので、多分、これが「生涯最後の合同ゴルフ会」となるかも知れないから、元気にやりましょう」と言うことになり、紫雲ゴルフ倶楽部で 11 名、3 組で挙行しました。

ストグロスは 93 で新潟の佐々木繁君、ベストハンディ賞も佐々木君が獲得しました。

賞品は、木村食品のお餅の他、青山に因んで會津八一大先輩の校庭の歌碑、新年歌会応援歌「ふなひととはやこきいてよふきあれしよひのなこりのなほたか久止母」の色紙と「會津八一と奈良」・「會津八一とゆかりの地」の図書を贈呈し、大変格調の高い賞品であると喜ばれました。

祝う会翌日の 26 日は生憎曇り時々雨の肌寒い状況でしたが、全員年齢を忘れて 30 回以上に亘る積年のコンペの想い出等を語り合いながら楽しく、怪我もなく無事に終わることが出来ました。

競技は、ペリア方式で東京地区の浅見昭夫君が優勝、準優勝は同じく東京の安宅久憲君、べ

参加した精鋭は浅見昭夫・安宅久憲・大橋恒夫・風間博・加藤榮一・木村昇・倉茂周典・佐々木繁・長谷川義明・藤田太郎・村山健君 (50 音順) の計 11 名でした。

♪ ああ高校二年生♪

懐かしの映像に驚嘆!

花輪 治 (70 回) 62 卒

古稀記念の 70 回生の東京同期会が 4 月 27 日午後 1 時から御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催された。来賓は新潟から駆けつけてくださった宮地先生と東京在住の飯利先生のお二人。出席者は 46 名、2 人が遅れて加わり、最後は 48 名に達した。三重、岐阜、長野、群馬から各 1 名、そして新潟からも 3 名の皆様に遠方から参加していただいた。宴酬の時、ホール中央のスクリーンに 53



クリーンに 53 年前の駅伝大会の映画が映し出された。あれが君だ、これは俺かと驚きの声が期せずして上がった。実は宮地先生が当時最新鋭のエルモ 8 ミリで撮影しておいてくださったものである。我々が 2 年生の時の駅伝大会と 3 年生の青陵祭の様子が約 40 分間上映された。学生服に帽子、さらにレ

インコートを着て雨模様の田舎道を自転車で伴走する姿、青陵祭では仮装して踊る女子生徒が次々と登場し、忘れていた青春時代がよみがえった。

更に宮地先生と竹山洋之君からこの 8 ミリ映画を収録した DVD の提供があり、抽選でお土産として供された。

会場には石原誠君持参の昭和 34 年から 37 年の生徒会新聞「青山」の拡大コピーが掲示され、記事には勿論、山鹿屋、豆八の広告が「映画」と共にあり、当時の高校生活を偲ばせてくれた。

興奮冷めやらぬ同期会でした。午後 3 時半に再会を期して校歌と丈夫を全員で高唱して散会した。

今回の幹事は加藤邦紘、金子正史、土田進、花輪治の 4 名が担当した。

卒業五十周年さんばち会

湯沢温泉に集う

中村 英一 (71 回) 63 卒

昭和 38 年春、紅顔の若者たちはそれぞれの人生に大きく踏み出した。それから丁度 50 年、古希を目前にした 71 回生の「さんばち会」を 1 泊 2 日の日程で越

後湯沢の湯沢グランドホテルで開催した。参加は 61 人。うち女子は 6 人。

平成 25 年 6 月 5 日の夕刻、県内、県外の各地から懐かしい顔

「青山 68 会展～PART X～」

68 回生による 10 回目の作品展を開催します

(開催日時) 9 月 4 日 (水) ～ 8 日 (日)

午前 10 時～午後 4 時 (但し、4 日は午後 1 時から)

(会場) NST ギャラリー (新潟市中央区八千代 2-3-1)

(出品作品) 絵画、書道、工芸など



が受付に現れる。この会ならではの心温まる空気が会場を満たした。瀧澤強一先生も来場。会員から歓声が上がる。しかし、この二年のうちに遠藤久雄、小田一彦、松沢昭然、三先生がご逝去。残念なことで。心からご冥福を祈る。

湯につかり寛いだ浴衣姿での総会及び宴は中野久君の司会で進行的に顔を合わせた人、この会で5年毎にまみえる人、卒業以来半世紀ぶりに対面できた人等々、いろいろな時の経過を包みながら会は一挙に盛りの頂点へと向かう。ここかしこで正に会話が百花繚乱の趣。世界一の長寿

「青山80還暦同期会」開催のお知らせ

人生の節目の還暦を祝い、記念の同期会を開催します。

旧交を温めながら、ゆったりとした時間を楽しみませんか。
多数の同期の方にご参加いただきますよう、お願い致します。

1. 日 時 2013 年 11 月 9 日 (土)
16:30 受付開始 17:00 記念撮影
2. 場 所 鍋茶屋
〒951-8065
新潟市中央区東堀通り 8-1420
tel 025-222-6131

80回同期の方々、お誘い合わせの上、ご参加ください。

詳細は下記ホームページ、メールをご利用ください。

HP: <http://www.geocities.jp/aoyama80niigata/>

佐藤 (1 組) my-sato@ma.tlp.ne.jp

鈴木 (9 組) kotobaya@mp.ciao.jp

国となり、齢七十はまだまだ現役といわれるようだがやはり古希を迎えるとなると、よくぞ頑張った、との思いがひとしお強い。人生の大きな節目を前に諸兄姉の穏やかな表情に従来とは異なる落ち着きと安堵を感じたのは私だけではあるまい。

5年毎に開催してきた当会ではあるが、今後は2年毎に新潟市内で開催する旨今回の総会決議で決まった。昨年から準備と本番の運営に当たった山内幹夫代表はじめ幹事の皆さんに感謝し、2年後の元氣な再会を心から願っている。

「恩師を囲む」

木ノ下 健次 (通10回) 68卒



11月8日に10・12回卒の同志で、恩師廣澤先生を囲みました。卒業して2・3年おきに1泊で開催していたのですが今回は日帰りとなりました。場所は岩室温泉の「ゆもとや」で現地集合、現地解散。廣澤先生を含め9人の出席でした。

廣澤先生はお元気でいつも変わらぬ笑顔で楽しい会になりました。小人数で家庭的で纏まりのある会でした。

卒業して40数年が経ちましたが歳老いたのも忘れ、当時にタ

イムスリップした様にスクーリングでの授業、合宿でのスキー授業、学習会での勉強、関西方面の修学旅行、それに有志でのハイキングに行ったことなど、次々と昨日のことのように思い出話に花が咲きました。やはり一番はレポートの提出に苦労したことです。(提出日に遅れ、廣澤先生、諸先生方を大変困らせました。)

近況の報告では定年になった人、まだ仕事から離れられない人、社会貢献で頑張っている人、それに孫の自慢話と時間があつと云う間に過ぎてゆきました。残念なことに車の運転手は飲酒できず可哀そうでした。(ノンアルコールビールでガマン)

「皆、還暦を過ぎていたので次回開催は年数が開かない方がよい。廣澤先生を囲み、来年も又、会いたい」と約束し御開きとしました。まだまだ人生はスパーク!

青山! 青山! 青山!!
次回まで皆、元気で!!

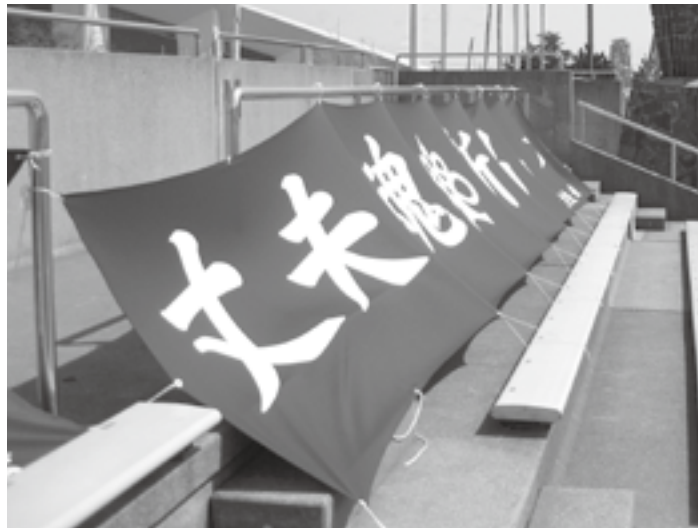
OB 会 報 告

青山陸上競技「OBOG還暦を祝う会」、
今年も開催します

高山 俊彦（78回） 70卒

今年1月発行の会報第96号にご報告した我が現役後輩への贈り物、新しい横断幕がシーズン開幕とともに陸上競技場に翻り、実に力強い輝きを放っています。エンジンに白抜き文字、中央に松葉の校章をあしらった『丈夫魂・新潟高校』の横断幕が部員の歌う「丈夫」とともに

この4月に本会の提案者である74回伊藤宏（敬称略）が静岡大学を、同期の小池哲雄が新潟市民病院院長を退官するなど、先輩方も節目の季節を迎えています。



一方、79回米原洋一（青山陸上）のみならず全国的な陸上競技の記録や動向に造詣が深い（い）は、昨年来インドネシアの関西ペイント現地法人会社社長として気候風土の違いをものともせず頑張っています。彼は

残念ながら昨年は出席できませんでした。同期の三膳義久、関川寿郎、佐藤（森）潮子もこの会に毎年元気な顔を見せてくれます。

また平成27年には日本選手権の新潟開催が決定し、北陸実業団会長を務める76回大橋誠五（国際総合計画社長）や72回青海道寛（アルビレックスランニングクラブ取締役）を中心に同窓の何名かも含め大会の成功に向け努力しています。国体や全国高校総体、全国中学校大会、全日本実業団の開催経験はあるものの、新潟では初めての日本選手権の開催であり、国際陸上競技連盟の『クラス1』の認証を受けている記録の出易いとい

われるトラックで、トップアスリートの躍動が直接観戦できることは実に意義深いことです。このビッグイベントの成功に向け、我々新潟高校出身者である陸上競技経験者は積極的に協力をしていく所存です。その中でOBOG会事務局の86回高橋（佐々木）みどり、平成23年の全国高校総体での審判資格を取得し、この日本選手権でも競技場に立つことになっています。

今年も8月10日のお盆に「青山陸上OBOG還暦を祝う会」を開催する予定です。さらに案内状の送付範囲を拡大してこの輪を広げたいと考えています。更なる先輩後輩諸君の積極的な参加を心待ちにしています。

平成25年度フェンシング部OB会報告

石原 基規（88回）80卒

さる平成25年2月23日新潟駅前「信濃川」にてフェンシング部OB会を開催しました。1年間空いて2年ぶりの開催となりました。久しぶりに懐かしい先輩・同期・後輩と21名の精鋭が集まりました。今回は現役大学生の女性も含め、6人の女性が参加し華やかな会になりました。会には加藤会長のおいさつで始まり、昔話で盛り上がった頃、在校生の戦績について現在コー

チをされている遠藤先輩から報告いただきました。相変わらず女子の勢いがすく、昨年の高校選抜ではフルレでベスト8に、高校総体ではエペでベスト16に残ったとのことでした。またアジアジュニアアカデ選手権大会で古俣潮里選手がエペで選拔され（その後3月の大会でアジア2位に入賞）、ますます活気づいています。



が、87回卒の松沢孝浩先輩が昨年亡くなられたことも告げられました。松沢先輩は学業優秀な方で、東大に現役合格されました。一番の思い出は卒業後の在校生の夏合宿の時、在校生の寮所に潜り込んで当時の体育教官の本田先生と一緒に怒られたこと

とです。また卒業後数年間（就職後も）我々前後の代で、家族連れでキャンプに行ったりした時は必ず参加してくれ、楽しい時を過ごしました。

ご冥福をお祈りします。

以上

ボート部OB会

青山艇友会定時総会開催

幹事長 神林 正浩 (89回) '81卒



【総会】会長を議長として議案審議

青山艇友会は平成25年3月16日(土)、新潟市内の柳江苑で定時総会を開催いたしました。

同窓会から長谷川会長をこ来賓に迎え、顧問の先生方2名にOBを加え総勢22名の出席でおこ

なうことができました。

総会は渡辺研二艇友会長を議長として進行し、報告事項、事業・予算案等を審議し承認されました。また、今回は役員改選時で会長に渡辺研二(75回)が再選されました。

母校支援としてコーチ支援や全国大会出場支援をおこなうことが確認されました。

懇親会では、同年代で誘い合つての参加が多かったこともあり、旧交を温め大いに盛り上がりしました。最後は「ますら

お」、漕艇部々歌」で締めつけてお開きとなりました。

▼出席者22名

(同窓会会長) 長谷川義明(顧問) 畔柳順一、(顧問) 佐藤弘

朗、(58回) 加藤高弘、(62回) 原正雄、(65回) 佐藤勝弘、(68回) 笠原紘洋、(68回) 堀内孝、(68回) 若井省吾、(68回) 岩原修爾、(68回) 関川利男、(72回) 佐々木勝、(72回) 阿部勲、(75回) 渡辺研二、(76回) 大井峰夫、(78回) 水沼真一、(79回) 増井隆夫、(79回) 上原啓、(80回) 櫻井優、(80回) 佐藤正昭、(89回) 井上聡、(89回) 神林正浩

■活動報告等

▽平成24年3月に艇庫が信濃川右岸上流へ移転。旧艇庫からの引越しに伴う「艇庫クリーン作戦」の助成をおこないました。

▽OB現役懇親会を平成24年7月22日(日)に実施。高校生と一緒に昼飯を食べようという

会。OB・顧問・高校生総勢38名。1年生へ入部の動機を聞くことが恒例で「ボートは初めてで興味を持った」、「先輩たちが楽しそうだったから」など語ってくれました。

▽艇友会報第34号を9月10日に発行。顧問の先生に現役情報の執筆をお願いし、OBだけでなく現役とのコミュニケーションツールとなっております。

▽ホームページを開設して3年が経過。「掲示板」には現役・OBの旬の情報が満載です。「青山艇友会」で検索してご覧いただけただけなら幸いです。

「青山ソフトテニスクラブ」の魅力

原口 誠 (90回) '82卒

当クラブは、ソフトテニス部(旧・軟式庭球部)のOB会であり、卒業生および歴代の顧問の先生方を中心とした500名超の会員で構成されている、非常に歴史のあるクラブです。

OB会として、現役高校生に対する支援(ボール代や遠征費の援助)を行っているほか、現在でも現役でプレーを続けているOBは、クラブチームとして新潟市の大会などに出場しています。

クラブの最大の行事は、何といても毎年お盆の時期に開催しているOB会です。懐かしい新潟高校のコートで、上は70代のOBから下は現役高校生までが一緒になって一日テニスを楽しみ、夜は場所を移して懇親会を行います。新潟在住のOBや先生方はもちろんのこと、遠方からも多くのOBが毎年この会に参加しており、中には卒業以来30年近く、一度も欠



かさずに参加している強者(?)もいます。自分たちが汗と涙を流した想い出のコートと、世代を超えた素晴らしい仲間に対する愛着を、いかに多くのOBが感じているかがわかりただけるのではないのでしょうか。

私事で恐縮ですが、私は高校3年になるとき、東京の高校からこの新潟高校に転入し、軟式庭球部(当時)に入っていたきました。現役部員としての生活はインターハイ予選で敗退するまでのわずか2ヶ月程度でしたが、そんな他所者の私を快く受け入れて下さった軟式庭球部の皆さん、そしてOB会の皆さんには今でも心から感謝しており、卒業後は何とか恩返しをしたいという気持ちで、できる限り毎年OB会に参加させていただいております。

現在は、私の実家も、同じく軟式庭球部OBである家内(彩子(旧姓・三浦) 93回卒)の実家も、すでに新潟にはなく、新潟に帰って来られる機会はこのOB会だけと言っても過言ではない状態になってしまいました。が、新潟は私がこれまで住んだ土地の中で最も好きな場所です。このOB会の魅力を一人でも多くの皆さんに伝えていきたいと思っています。

第五回 書道部展を終えて

青山墨友会 小川 和恵 (101回) '93卒

平成25年5月25日～31日、新潟県民会館に於いて、今年も無事、書道部展を開催することができました。心より御礼申し上げます。準備、搬入は顧問の小川先生、内山先生の指導のもと、高校生が中心となつて行い、展示作業には卒業生五名も加わりました。会場には現役部員26名、卒業生14名、合計50点の作品が並び、見ごたえのある展示であつたと思います。

今年のはかつて書道部の部長を



の方、実際に書道部員であつたという諸先輩方、何卒ご連絡くださいませ。

青山墨友会は充足して10年ほどの会で、若い会員は住所変更も多く連絡がうまく取れないという問題も抱えています。それでも、会期中には続々と卒業生が顔を出し、都合がつかないからと志を送ってくれる会員もあり、気持ちの良い交流が続いています。

最後に出品者を紹

介して結びといたします。(敬称略)

伊豆名 皓美 (113回)

博物館勤務

真砂 沙織 (113回)

私立中高一貫校講師

古俣 慎也 (114回)

京都大学大学院在学

波多野 彩佳 (114回)

高等学校講師

増子 健 (115回)

東京理科大学大学院在学

本田 風 (118回)

筑波大学芸術学群在学

上杉 憲 (119回)

東京大学在学

久須美 裕子 (119回)

筑波大学芸術学群在学

嶋 孝哉 (119回)

東京大学在学

島村 澤 (120回)

奈良教育大学在学

斎藤 多佳子 (121回)

新潟大学在学

剣道部OB会 平成24年度の活動報告

青山剣友会 事務局代表

滝沢 俊一 (104回) '96卒

総会
平成24年8月11日、平成24年度総会が新潟市の白山会館で開催されました。

総会に先立ち、近年青山剣友会に縁の深い方々が多数物故されたこともあり、亡くなった方々の霊を慰め、昔を偲ぶとともにこれからの会の発展を祈るという趣旨で、白山神社本殿で慰霊祭を開催しました。

慰霊祭には会員20名程度が参加し、お祓いの後、順に玉ぐしをささげました。

総会では平成23年度会計報告を行い、会計係の坂上結希氏(103回)から決算説明があり、

また、会計監査の松本一志氏(94回)が当日欠席のため、事前に監査された報告を事務局で

させていただきました。承認されました。総会に引き続き、懇親会となりました。例年より若手会員が多く参加し総勢27名で、真夏の夜を美味しい生ビールを酌み交わしながら和やかに親交を深めることができました。

最後に、剣友会応援団長の宗村信明氏(88回)の応援指導で母校発展の願いを込めた丈夫の斉唱で、盛会のうちに締めとなりました。

また同日午前中、OB・母校現役剣道部員による合同稽古が行われました。

また同日午前中、OB・母校現役剣道部員による合同稽古が行われました。

新潟高校剣道場で行われました。今年も30度を超える暑中稽古となりましたが、大先輩から大学生そして近隣の小学生まで総勢47名による気合いの入った稽古が繰り広げられました。

東甲信越学生剣道大会で、小林幸暉選手(119回)新潟大学2年)が見事個人優勝を果たしました。

1月2日、平成25年新年会が新潟市のイタリヤ軒にて開催されました。村島会長をはじめ31名の会員が集い、和やかに新年をお祝いしました。

平成24年11月23日に黒埼地区総合体育館で新潟県実業団剣道大会が開催されました。

同日午前中に母校の道場で行われた新年初稽古会は、多くの参加をいただき、総勢58名の現役生・OBが寒い中、気合いと熱のこもった、充実した稽古になりました。

団体戦では小柳貴裕選手(99回)が第四銀行チームを率いて出場し、準優勝となりました。

母校剣道部とOBの合同稽古会

毎月1回、新潟高校剣道場にて現役生・OBを始め一般の参加で実施しております。

会員の活躍

平成24年5月13日、富山県で第54回北信越学生剣道選手権大会が開催され、津野佑実華選手(119回)新潟大学2年)が女子の部で見事優勝、北信越チャンピオンに輝きました。

平成24年8月25・26日に群馬県で行われました「関



特別寄稿

第4回「青山789会」

学年対抗ゴルフコンペ

田中 宣男 (68回) '60卒

4月11日紫雲ゴルフ倶楽部に於いて青山67・68・69・70回対抗戦が行われました。今年は70回が精鋭を選抜して初参加し、熾烈な(?)戦いとなりましたが、結果は個人戦優勝の関根紀一郎さんの頑張りで68回が優勝しました。

準優勝は個人戦2位の金子健三さんの健闘で70回でした。特筆なのは、大会の薔薇(?)岡田尚子さんのドラコン3個獲得で次回からはドラコン取りやめ



参加者 (敬称略)
 67回 君英夫 中野仁 加藤弘
 68回 関根紀一郎 久保田幸郎
 藤崎昌彦 加藤達雄
 69回 田中宣男
 岡田尚子 笠原弘
 大谷勝美 鈴木将夫
 70回 金子健三 増田勝弥
 斎藤忠正 田中信
 懇親会のみ参加
 67回 小林晋一 竹内正明
 白井節
 69回 坂爪征基

第35回 青山ゴルフ会

岡田 尚子 (69回) '61卒

5月26日(日)紫雲ゴルフクラブ「飯豊コース」にて開催されました。

暑くもなく寒くもなく絶好のゴルフ日和。上は50回の上村会長から11回(あら!うちの子より若い)まで54名参加。

69回は79回7名参加に次ぐ6名の精鋭で参加。以前は女性の参加がほとんどなく、同期の新潟在住大森さんから「来てね」と誘われいつも東京から参加。結構優勝・準優勝に絡んでいるので今回ももちろん団体戦優勝狙いでみんな気合十分。

回つてる間は同期なのでワイワイバカ言いながら楽しくラウンド。前の組が大大先輩の組なので「10年後には前の先輩たちみたいに出てこれないな」と弱音を吐くのもいたり。



うちのエース大谷さんもなぜか今回は弱気のパターが多く、私はといえばロングで2回バーディーを取りくだらないミスでトリも飛び、お互いにミスったところは「よし!ここは隠しホール」と・・・

ペリアはギャンブルみたいなもので開けてみないとわからない。(ちなみにちよつと前に東京で出た200人のコンペでは優勝者と同じスコアで私は105位でした。)

期待しないまま駅前の表彰式会場へ。

まず10位から下の飛び賞の発表。1期先輩・1期後輩と同じテーブルを囲みながら盛り上がっているのに誰も呼ばれず。気の早いのがこっそり隠しホールを聞いてきてスコアカードで計算しているうちに、6位69期笠原さん、4位69期大谷さんとコールされ10位以内に2人入ったからうまくゆくと優勝か?と期待に小さい胸を目いっぱいふくらませていたら、なんと!!!優勝69期岡田さん「ドラコンも全部取ったし万歳!」

もちろん69期団体優勝も勝ち取り、1期先輩・1期後輩と2次会はいつもの「ホテルオークラ」の上のラウンジへ。団体優勝の賞金はそこで吐き出すのがお決まり。幹事さんお世話になりました。秋も優勝するぞ!

青山鳥鷺の会25年度ご案内

齋藤 繁夫 旧職員 (77回) '69卒

*名称 青山鳥鷺の会 鳥鷺の会 昼食付き二千円

*会長 長谷川義明 青山同窓 10時~15時

*会会長 会会長 対局数 四局

*会員数 現在約40人 懇親会 三千円(同会場)

*会員資格 青山同窓生と新潟 15時~17時

*高校現職員・旧職員 片方のみの参加も可。

*今年度例会 *連絡先

前期 8月17日(土) 025(386) 1560

後期 2月9日(日) 電話・FAX共用

会場 新潟会館(中央区幸西 青山鳥鷺の会事務局齋藤繁夫

3-3-1) 入会ご希望の方は事務局まで

*日程と会費 ご連絡ください。



追悼文

一生を剣道とともに貫いた人生の達人

関崎睦男先生御逝去

青山剣友会会長

村島 滋 (52回)

45卒



昭和21年9月、無事沼垂駅に帰着された。

戦後剣道復活は関崎先生主導と言ってもよい。

戦後の日本武道への占領軍の対応は厳しかったが、昭和26年4月に学校剣道の解禁が実現し、同年6月「新潟県高等学校体育連盟」の発足を見るに至る。

先生は、去る8月20日93才の天寿を全うして逝去された。

先生は大正9年新潟市内沼垂町に誕生、昭和7年県立新潟中学に入学、剣道部では常に先鋒として貢献し、昭和12年の県下中等学校武道大会では決勝で加茂農林を破って6年ぶりに優勝された。

その後、國學院大学に進まれ、文學、歴史を学ばれるとともに、日夜剣道に励まれた。最終学年では剣道部キャプテンになる一方、所属学部に関係するすべての教科の教員資格を得て卒業された。戦争激化の昭和10年代後半、陸軍に入隊され、それでも文武両面で成果を上げ、卒業成績抜群で指導教官として残られ、その後戦場に出征したが、

声に接することはなく、御逝去の報となった。

御自身も「持つて生まれた剣道狂、眼が閉じるまでバタヤンのように清く正しく遣つていこうと思う」とおっしゃったその

お言葉は、計り知れない大きな価値、力を持つて後世に残されたであろうと確信する。

ここであらためて心から御冥福をお祈りさせて頂きます。

同窓の本

『新潟県尋常中学校の創立』

『明治三五年入学生その後』のご紹介

校内幹事 本間 茂 (88回)

80卒

旧職員の高橋伸二先生が標記の御本を発行され、学校に3冊、ご恵贈くださいました。

先生は昭和51年4月より平成6年3月まで新潟高校にご勤務になり、この間、『青山百年史』の編纂をなさいました。『青山百二十年史』の刊行に際しましても、多くのご助言をいただいております。

この御本は、A5判、140ページで、創立時に入学した、級外生から4年生までの197名について

母校は今

先生の魅力

教育実習生

長谷川雅彦 (118回)

10卒

私は理科の物理の教育実習生として2週間新潟高校でお世話になりました。そこで私は先生がこんなにも面白く、しかし難しい職業であることを知りました。

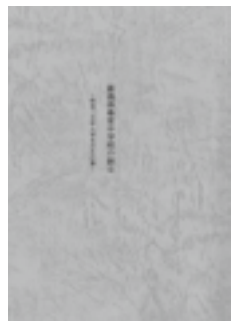
まず見学では私が生徒だったときは違う観点で先生の授業を見ることができ、先生が生徒に考えさせるための工夫、黒板に書かれた文字や図なども生徒にどのような印象を与えるかまでも細かに考えており、またそれを毎日行われる授業に実践しているということがすごいと思いました。

しかしいくら見学していてもいざ実際に授業を行ってみると必死に教えようとする私と受けている生徒の間で溝が生まれて、私が独り相撲をしているように感じたと思います。うまく生徒に伝わらないことに落胆して再度先生の授業と比較すると決

定的な差が見られました。

それは先生の教材に向ける熱意です。先生の授業を見学していると、教材への思い入れや、先生の興味があることを話しているうちに生徒が話を聞いていて、いつの間にか先生の雰囲気教室が包まれていたように感じました。今後教員という職業につくならば、生徒を授業に引き込む技術を持つて臨みたいなと思いました。

自分の母校である新潟高校で教育実習をすることができて大変うれしかったです。忙しい中厳しくそして優しく指導してくださった先生方、授業を受けてくださった生徒の皆さん、そして時間がある時に授業や生活に関すること様々議論をして共に過ごした教育実習生の同期の人達に感謝します。本当にありがとうございました。



教育実習を振り返って

教育実習生 本田 風 (118回) 10卒

私は書道の教育実習生として 3 週間お世話になりました。この 3 週間は毎日が充実し様々なことを感じました。

授業では初め、自分の知っていることを生徒に教えるということにばかり気をとられ、一方的な授業をしてしまいました。伝えるということがばかりではなく、生徒がどう受け取ってくれるか、ということが大切なのだと気付きました。自分の話したことがそのまま生徒の知識となっていくことの責任も感じました。

そして、生徒の書いた作品にとっても感動しました。たった 1 時間の授業の中でどんなうまくなっているか。授業中に書くものだけでなく書道部員の作品も、素直で一生懸命に書かれたものばかりで心打たれました。

た。書道にはこんなに人を感動させる力があるのだと実感し、自分ももつと頑張ろうという力をもらいました。

書道をする生徒の姿を見て、書道を含めた芸術を高校で学ぶ意味について改めて考える機会にもなりました。芸術は受験に必要な科目ではありません。でも、高校生が卒業してこれから長い人生を生きていくなかで、きつと何か必要なものだと思うています。まだはつきりとはわかりませんが、これからも考え続けていきたいと思っています。

この 3 週間 先生方は私たちにとても温かく見守ってくださいました。そして素敵な生徒たちにとっても支えられました。新潟高校で実習をすることができて本当に良かったと感じています。ありがとうございました。

職員の異動

平成二十五年四月

〈退職 転出(転出先)〉

副校長 市川 亮

(柏崎翔洋中学校長)

教頭 宮崎 和子(長岡副校長)

教諭 押木 洋(新発田南)

峰本 義明(新発田)

畔柳 順一(新潟西)

室本 明(村上)

渡邊 孝弘(出雲崎教頭)

児玉 悟

(教育庁生涯学習推進課主任)

瀬戸 謙一(三条)

登坂 悟(高田南城)

風間 睦男(新潟西)

望月 雅之

(定年退職 常勤講師へ)

横堀 真弓

(新発田南教頭)

阿部 雅也

(県立教育センター指導主事)

金子賢太郎(糸魚川)

非常勤講師 理科(物理)

堀江 光典(退職)

事務長 西方 明良

(定年退職)

庶務係長 和久井由美子

(新潟工業事務長)

非常勤職員 事務補助 倉田美智子(退職)

〈転入(前所属)〉

副校長 加藤 徹男

(長岡副校長)

教頭 山本 久(村松教頭)

教諭 山田 睦雄(村松)

押木 和子(新潟江南)

高橋かおり(新採用)

宮澤 寛(新潟田)

小林 伸輔(国際情報)

泉田 亮(新潟工業)

品澤 志保(村松)

須寄 由吏(新採用)

常勤講師 神谷 謙光

(十日町総合)

養護助教諭 望月 雅之

小林ひとみ

(3か月)

非常勤講師 神主 明(新規)

郷 夏史(新規)

事務長 鷺津 勇

庶務係長 (教育庁総務課企画主幹)

塩田 博幸

非常勤職員 事務補助 (新潟東工業庶務係長)

小森笑美子

図書館補助

星山絵里子



青陵祭

母 校 は 今

平成25年度入試結果

進路指導主事 小林 靖明

<平成 25 年度入試概況>

平成 25 年度入試は厳しい経済状況や学生の就職難、センター試験の難化という特徴的な入試となりました。

1 月に実施された大学入試センター試験では受験人口の増加（前年度＋0.3%）にもかかわらず、センター試験の出願者数の減少（前年度－2.0%）となりました。センター試験の難化とそれとともなう、私大受験へのシフト（志願者数 前年比 105%）のためと考えられます。センター試験の平均点が大幅にダウンしましたが、国公立大学の人気は堅調であり、当初の志望校を下げる手堅い出願が目立ちました。全国的には「地元志向」、さらなる「安全志向」といった傾向は続き、学部系統別の人気は「文低理高」「資格志向」は変わりませんでした。文系では社会科学系（法・経）の志願者の減少が特に難関大学で目立ち、「教育」人気の過熱も一段落となりました。理系は「工」が大幅に増加しました。「医・医」はセンターの難化で減、その志願者が「歯」、「薬」に流入した可能性が高いと考えられます。

センター試験は難化し、文系・理系とも平均点は大幅にダウンしました。全国平均点は文系で 540 点（900 点換算・前年－41 点）、理系は 565 点（同・－36 点）となっています。記述力を重視している本校にとっては、センター試験の難化は有利であり、最難関大学では初志貫徹を貫き、朗報を持ってきてくれました。一方、センター試験の失敗を引きずり、記述で逆転することができず、一歩及ばない生徒も今年は見られました。

以下、昨年度の進路結果についてご報告します。
<平成 25 年卒業生の進学状況>

難関大学（東大、京大、一橋大、東工大、国公立大医学科及び旧帝大）の合格者が 58 名となっています。過去 5 年間では 71 → 80 → 72 → 75

→ 58 のように推移しています。北大が 13 → 9、東北大が 30 → 18 と大幅に減となりました。

センター試験の難化もありましたが、推薦入試、AO 入試も意識するべきでした。

国公立大医学科の現役合格者が 24 名となり、理数科設置以降、最高の成果を残しました。新潟大学を始め、東北大、千葉大などに合格しています。過去 5 年間の推移は 16 → 22 → 19 → 19 → 24 となり、私大を含めると現役で 26 名が進学しました。その要因としては、メディカルコース（医療系希望者コース）での学習や講演会、大学訪問を通じて絶えず動機づけがなされたことが考えられます。現役合格 30 名を目指して今後とも取り組んでいきます。

東京大学の合格者数（過去 5 年間 10 → 4 → 7 → 8 → 8）は、文Ⅰで 1 名、文Ⅱで 1 名、文Ⅲで 2 名、理Ⅰで 3 名、後期で 1 名の計 8 名でした。今年もセンター試験後の授業形態をきめ細かい形にし、志望大学別の演習を行いました。

進学率はセンター試験の難化の影響もあり、昨年度の 66.1% から 58.4% とダウンしました。難関大学へ積極的に出願したものの力が及ばなかった生徒、合格を勝ち取りながらも、さらに上を目指す生徒もいます。これらの生徒達には昨年同様、「ますらお通信」を送って激励していきます。

<最後に>

センター試験の結果を受け、堅実に出願した者、難関大に積極的にチャレンジした者、それぞれいます。自分の可能性を信じて、もう一年準備する生徒もいます。「文武両道」の伝統を堅持しつつ、第一志望の現役合格者数を増やすべく、私たち職員は今後とも生徒の学力向上に努めて参ります。

同窓会の皆様方からのご支援をよろしくお願いいたします。

主な大学合格者数（現役合格者延べ数）

主な国公立大学 合格者数								
大学名	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
北海道大	15	15	10	9	11	10	13	9
旭川医科	1	5	0			0	0	
東北大	24	22	28	24	29	22	30	18
秋田大	4	3	1		0	1	4	2
山形大	3	0	2	2	3	3	3	6
筑波大	13	5	4	7	8	6	5	2
埼玉大	4	4	1	1	1	1	0	0
千葉大	13	8	7	10	6	5	4	7
東京大	9	10	6	10	4	7	8	8
東京外語大	3	1	5	3	2	6	1	2
東京学芸大	9	2	8	6	8	4	2	5
東京工業大	2	4	3	2	4	1	1	3
東京農工大	1	1	3	1	2	1	2	1
お茶女子大	6	2	0	5	1	2	4	2
電気通信大		0	1	2	0		1	
一橋大	3	1	2	3	5	5	3	2
横浜国立大	8	7	4	9	1	7	4	4
新潟大	73	69	84	65	50	52	59	53
長岡技科大	0		1			1		
富山大	1	2	3	2	1	4	4	4
金沢大	7	5	9	7	4	8	10	4
信州大	2	0	1	3	4	0	2	4
静岡大	1	1	0					0
名古屋大	1	1	0	1	1	1	0	
京大	5	6	4	3	6	7	2	3
大阪大	2	5	1	3	3	2	4	3
神戸大	1	3	1	2	1	0	0	0
九州大	1	1				1		0
首都大東京	3	4	4	3	4	7	5	0
横浜市立大	1	2	2	2	2	1	1	1
新潟県立大				7	6	5	8	7
静岡県立大	1	2		1	0	0		0
大阪府立大	0	1	0	1		1		0
大阪市立大	2		1	1				
その他	14	14	17	12	9	12	11	13
合 計	233	206	213	207	176	183	191	163

主な私立大学 合格者数								
大学名	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
早稲田大	41	32	34	40	28	30	34	25
慶応大	18	10	15	13	15	13	11	10
明治大	35	36	48	36	40	29	31	32
立教大	20	22	23	28	15	9	7	12
法政大	21	17	29	31	17	13	12	15
青山学院大	9	12	12	12	17	9	10	8
学習院大	7	4	6	2	2	2	2	3
北里大	6	4	5	11	10	3	4	5
国学院大	4	6	2	5	2	1	2	2
国際基督教大	2		5	3	2		1	2
駒沢大	9	1	3	3	1	2	9	2
自治医科大	1	0	1	0	0	1		1
上智大	5	5	5	8	6	4	5	9
成蹊大	4	2	2	5	1		2	4
成城大	3	4	4	0	1	2	2	2
専修大	9	2	3	10		4	2	2
玉川大	3	2	5		1		1	
中央大	36	30	36	33	22	19	26	31
津田塾大	11	6	3	10	5	5	0	6
東海大	5	4	4	3			1	3
東京農業大	5	5	12	4	4	2	8	3
東京理科大	21	20	27	20	28	11	15	14
東京薬科大	3	4	1		4			2
東京女子大	6	10	5	7	3	3	4	5
東邦大	3	1	2	1	1	1		3
日本大	6	7	15	19	8	9	12	12
日本女子大	4	9	2	4	2	7	4	2
明治学院大	6	7	8	4	3	2	2	2
文教大	7	8	7			1	4	1
神奈川大	6	3	2	0				1
新潟薬科大	17	15	5	6	9	6	6	8
同志社大	6	4	4	2	1	3	6	7
立命館大	12	9	20	7	7	17	23	9
関西学院大	4	6	0	1	0		1	0
その他	89	55	62	46	50	37	45	59
合 計	444	362	417	374	305	243	292	302

*空白は未受験、0 は合格者 0

＜平成 25 年度新潟高等学校県総体結果一覧表＞

- 1 陸上競技

男子：5000 m 110 m H 400 m H 円盤投 女子：400 m 800 m 1500 m 3000 m 走高跳 1600 m R 学校対抗	8 位 岸本克佳 6 位 安立悠紀（北信越大会出場） 2 位 本間健太郎（北信越大会出場） 8 位 五十嵐 捷 3 位 大橋 悟（北信越大会出場） 4 位 広田有紀（北信越大会出場） 1 位 広田有紀（北信越大会出場） 5 位 榎 千遥（北信越大会出場） 4 位 榎 千遥（北信越大会出場） 3 位 中村真璃子（北信越大会出場） 5 位 中村・広田・伊藤・木佐貫（北信越大会出場） 総合 6 位 トラック 3 位
--	--
- 2 バスケットボール

男子：4 回戦 56－74 長岡大手 ベスト 16（ウインターカップ予選出場権獲得） 女子：3 回戦 63－92 三条商業

- 3 サッカー ベスト 16
- 4 ラグビー 2 回戦 24－43 北越
- 5 バレーボール

男子：準々決勝 0－2 東京学館新潟（ベスト 8） 女子：2 回戦 1－2 長岡

- 6 テニス

男子：団体 ベスト 16 女子：団体戦 3 位（北信越大会出場） シングルス ベスト 8 佐藤由唯 シングルス ベスト 16 福田あずみ ダブルス 1 位 佐藤由唯・福田あずみ（インターハイ・北信越大会出場） ダブルス ベスト 8 西口葉月・加藤海咲
--
- 7 ソフトテニス

男子：個人戦 3 回戦進出 川村茂修、皆川大悟 組 団体戦 2 回戦 1－2 新発田中央 女子：個人戦 3 回戦進出 団体戦 2 回戦 0－3 三条商業

- 8 卓球

男子：ダブルス 4 回戦進出 仲田・万年 2 回戦敗退 橋本・宮崎 シングルス 2 回戦進出 橋本智裕 女子：学校対抗戦 2 回戦 1－3 柏崎常盤 ダブルス 8 位 早福・田中（北信越大会出場） シングルス 3 位 早福美佳（北信越大会・インターハイ出場）
--
- 9 弓道

男子：団体 第 5 位 個人 準優勝 高橋 直（インターハイ出場） 4 位 石山友也
--
- 10 柔道

男子：団体戦 予選リーグ敗退 個人戦 81kg ベスト 8 加藤稜大（北信越大会出場）

- 11 剣道

男子：団体 予選リーグ 2－1 上越総合技術 2－1 長岡 決勝トーナメント 2 回戦 2－3 新潟第一（ベスト 8） 個人 小出 3 回戦進出

- 12 空手道

男子：団体形 2 回戦進出 団体組手 2 回戦進出 個人組手 2 位 篠原寛弥（インターハイ・北信越大会出場） 女子：団体形 3 位（北信越大会出場） 団体組手 2 回戦進出 個人組手 5 位 湯川充佑子

- 13 フェンシング

男子：学校対抗戦 2 位 個人 フルーレ 4 位 内藤大智 エペ 4 位 瀧宮大介 5 位 日根 岳 サーブル 2 位 内藤大智 3 位 押木 淳 4 位 花田亘平 女子：学校対抗戦 優勝（インターハイ出場） 個人 フルーレ 優勝 古俣潮里（インターハイ出場） 3 位 田村奈津子（北信越大会出場） 4 位 我山叶実 5 位 長澤日佳梨 6 位 藤石綾音 エペ 優勝 古俣潮里（インターハイ出場） 3 位 後藤佳奈 4 位 安藤真理 5 位 藤石綾音 6 位 新井しおり サーブル 3 位 長澤日佳梨
--
- 14 ボート

男子：シングル 5 位 本多幸治（北信越大会出場） 6 位 小黒聖明（北信越大会出場） ダブルスカル 3 位 新潟高等学校 A（白野睦葵・野村大樹）（北信越大会出場） 舵手付クォドルプル 3 位 新潟高等学校 A（長谷川陽向・古俣圭佑・石田琳太郎・藤田暁・遠山文也）（北信越大会出場） 舵手付クォドルプル 4 位 新潟高等学校 B（中野陽介・小林日向・竹田卓真・高橋涼風・生越瑞揮）（北信越大会出場） 女子：舵手付クォドルプル 2 位 新潟高等学校 A（符谷幸子・山岸萌貴・今井巴南・坂井桃花・拝野怜嘉）（北信越大会出場）
--
- 15 山岳 男子：優秀校 4 位



曾田武吉 我中藤川 正壯芳恵 男太郎次
76回S43年 梅田正敏 三喜栄 一彦夫
77回S44年 猪股律子 雄久誠 広一有介 雄司茂明 俊郎
78回S45年 今井高昌 二邦樹 子之洋樹 三
79回S46年 庄鈴持吉 司木田芳

80回S47年 池田博文 藤俊輔 田原誠 伊太啓子 神原本道 高橋直人
81回S48年 五十嵐修 五十嵐涉 笹川典男 霜鳥雅徳 寺山正志 横山俊二
83回S50年 窪田久明 近藤敏英 中戸雅博 中横山徹修
84回S51年 飯塚雅士 神蔵宏 坂井朋之 坂井玲輝 佐辻利恵 星野正行 丸山義子 浅田浩桂 畔上孝平 小志村芳一 志宮

86回S53年 板井梯二 櫻井素子
87回S54年 大山陽一 長谷部淳 山岸毅 山崎浩吉
88回S55年 小日向真樹 小池真理 小林久哉 長谷川章子
89回S56年 相場恵美子 市原綾子 灰野正宏
90回S57年 儀同政宏 佐藤美由紀 信太典子 白須洋二
91回S58年 梶谷敬子 平田龍彦 本間和美 渡部美紀
92回S59年 笹崎幹子 三屋宰子
93回S60年 齋藤義之 齋藤昌子 横山桂子
94回S61年 遊佐浩子

95回S62年 中嶋佳子 藤井靖
97回H1年 伊藤泰次郎 藤井洋
98回H2年 木暮早苗 鈴木広樹 渡邊隆興
100回H4年 吉田淳二
101回H5年 伊藤静香
102回H6年 宮崎立子
103回H7年 菅原菊子 鷺尾英一郎
106回H10年 齋藤健太郎
107回H11年 関裕子
110回H14年 富田基史
113回H17年 土田純子
115回H19年 藤田沙恵子
118回H22年 藤田彰子
119回H23年 木村亮太
120回H24年 平倉春香

通信制
5回S38年 喜多輝美
8回S41年 新井シン
9回S42年 木津誠一郎
10回S43年 田邊サチ子 藤田隆一
14回S47年 監物勝英 高橋ユリ子
20回S53年 猪口鈴枝
22回S55年 佐々木浩之 三原仁美

26回S59年 南雲トミイ 山崎喜男
28回S61年 星野きよ子
29回S62年 竹内正朋
33回H3年 津端キヨ
34回H4年 今井純子 大嶋知子 大橋万希子
40回H10年 丸山信夫
43回H13年 鶴巻新太郎
48回H18年 明道佳子

新潟県立新潟高等学校 創立百二十周年記念事業 募金御芳名簿 追加

平成 25 年 6 月 10 日現在

全日制		67回	
八木敦	大高道夫	奥山實	高橋千洋
清水裕子	伊藤俊輔		

※ その他に旧職員の方からも
いただいております。

同期会を開催される期の幹事の方へお願い

同期会の開催に合わせて、是非、会費納入者の拡大にご協力下さい。早めに、開催の期日を連絡頂ければ、事務局で、同窓会報・会費納入のお願い・振込用紙としてA4サイズが入る角2の同窓会封筒を人数分用意しておきます。よろしく願います。

会報へ寄稿される方へ、原稿字数のお願い

原稿の字数は800字から1,000字の間で書いて下さるようお願いいたします。1,000字以上ですと紙面の関係で載せられなくなる場合がありますのでよろしく願います。原稿について字、句を修正させていただくことがあります。

表紙題字：小川 和恵 (101回) イラスト：池主 憲夫 (68回)

広報委員会からのお知らせ

青山同窓会報および同窓会ホームページ部のメンバーをご紹介します。

「青山同窓会報」及び「同窓会ホームページ」への掲載に関するお問い合わせは同窓会事務局までご連絡下さい。

会報編集部会委員
池主 憲夫 (68回)
中野 久 (71回)
石井 智裕 (79回)
小山 佳子 (88回)

ホームページ部会委員
櫻井 麻利子 (94回)
阿部 素子 (94回)
本間 茂 (88回)
古沢 俊明 (88回)
学校職員
笹川 薫 (通信37回)
樋口 真佑子 (113回)
五十嵐 悠介 (107回)
望月 智美 (106回)
坂井 奈津子 (96回)
金井 利郎 (92回)

平成24年度 青山同窓会会費納入者

(H 24. 4. 1～H 25. 3.31)

10 月より 3 月末まで納入いただいた方を掲載しております。4 月より 9 月末まで納入された方は前号に掲載済みです。
会費を納入していただきますと「青山同窓会報」を毎号お届けいたします。申し訳ありませんが、納入のない方には「会報」をお送りすることができなくなってしまいます。

1 口 1,000 円。できるだけ 2 口以上でお願いいたします。

振込先：郵便振替口座

全日制

00650-7-4455

青山同窓会

通信制

00530-1-74207

青山通教部会

全日制
43回 S11年
渡部 一郎
48回 S16年
江口 正喜
49回 S17年
稲泉 武男
佐藤 武雄
舟崎 裕二郎
細野 耕爾
八木 敦
50回 S18年
五十嵐 清
瀬谷 誠
時田 勇司
51回 S19年
厚地 武
菅野 浩
52回 S20年
菊地 定一郎
亘 隆
53回 S20年
近 泰男
坂井 武夫
野田 栄次郎
堀 時男
山崎 典夫
55回 S22年
本間 義治

56回 S23年
大沼 淳
小島 直孝
古寺 嘉夫
高橋 主
高見 久義
庭山 六郎
宮川 忠行
57回 S24年
大川 進
渡辺 好博
58回 S25年
神田 勉
斉木 利雄
種村 祥一
大門 啓治
59回 S26年
小熊 英夫
神田 悌三
佐藤 進
中村 彰
長島 一郎
藤田 八郎
山田 和雄
60回 S27年
星野 政一
牧野 毅
向井 和夫

61回 S28年
朝日 明
阿部 富男
木村 昇
助川 孝雄
62回 S29年
神成 肅一
小林 政弘
長谷川 守英
星野 陸夫
吉川 達雄
渡辺 千里
63回 S30年
高橋 昌生
萩野 一英
星 鉄太郎
松岡 京子
64回 S31年
石山 宏治
小菅 秋
佐藤 茂司
白根 修
田辺 元彦
中村 輝久
中山 輝也
西野 貢司
早川 周作
65回 S32年
田中 実

堀川 芳男
本間 英男
村木 利夫
66回 S33年
稲月 喜一
川原 英夫
竹石 健一
福山 忠利
藤田 佐津紀
三井 昌子
吉田 六左エ門
67回 S34年
福山 忠昌
本間 寛
間口 龍郎
真島 紘一
皆川 学
68回 S35年
青木 彰
石山 巖
齋藤 重信
佐藤 公子
佐藤 敏
中村 輝夫
森田 浩二
渡邊 泰彦
69回 S36年
青木 利祐
岡田 尚子

佐々木 忠
佐藤 彬
高橋 正卓
玉木 清
鍋谷 康次郎
70回 S37年
笠原 大仙
川島 崎夫
栗山 勝博
武石 正中
西丸 功一
野川 晃一
山宮 士郎
71回 S38年
青柳 吉治
阿部 二郎
大野 武男
岡崎 裕子
佐藤 禮子
鈴木 孝彦
二宮 武彦
宮下 育子
村山 薫
渡辺 赫子
72回 S39年
青海 道寛
伊藤 美智子
上沼 歆子
追手 巍

奥山 守
渋谷 和夫
高橋 喬芳
西村 正徳
丹羽 正之志
丸山 武志
73回 S40年
雨宮 則夫
伊藤 フサ
大原 敏廣
笠井 隆三
田島 健三
田辺 研吉
樋口 正昭
藤田 慶一郎
74回 S41年
伊藤 忠博
風間 雄一
河原 一彦
鈴木 勝紀
坪川 藤夫
古海 正子
75回 S42年
上原 誠一郎
柿坂 伸子
小出 公平
後藤 輝雄
鈴木 正夫
千田 武

全日制	卒業年		通信制	全日制	卒業年		通信制	全日制	卒業年		通信制	全日制	卒業年		通信制	
31 回	T 13 年	1924 年		54 回	S 21 年	1946 年		77 回	S 44 年	1969 年	11 回	100 回	H 4 年	1992 年	34 回	
32 回	T 14 年	1925 年		55 回	S 22 年	1947 年		78 回	S 45 年	1970 年	12 回	101 回	H 5 年	1993 年	35 回	
33 回	T 15 年	1926 年		56 回	S 23 年	1948 年		79 回	S 46 年	1971 年	13 回	102 回	H 6 年	1994 年	36 回	
34 回	S 2 年	1927 年		57 回	S 24 年	1949 年		80 回	S 47 年	1972 年	14 回	103 回	H 7 年	1995 年	37 回	
35 回	S 3 年	1928 年		58 回	S 25 年	1950 年		81 回	S 48 年	1973 年	15 回	104 回	H 8 年	1996 年	38 回	
36 回	S 4 年	1929 年		59 回	S 26 年	1951 年		82 回	S 49 年	1974 年	16 回	105 回	H 9 年	1997 年	39 回	
37 回	S 5 年	1930 年		60 回	S 27 年	1952 年		83 回	S 50 年	1975 年	17 回	106 回	H 10 年	1998 年	40 回	
38 回	S 6 年	1931 年		61 回	S 28 年	1953 年		84 回	S 51 年	1976 年	18 回	107 回	H 11 年	1999 年	41 回	
39 回	S 7 年	1932 年		62 回	S 29 年	1954 年		85 回	S 52 年	1977 年	19 回	108 回	H 12 年	2000 年	42 回	
40 回	S 8 年	1933 年		63 回	S 30 年	1955 年		86 回	S 53 年	1978 年	20 回	109 回	H 13 年	2001 年	43 回	
41 回	S 9 年	1934 年		64 回	S 31 年	1956 年		87 回	S 54 年	1979 年	21 回	110 回	H 14 年	2002 年	44 回	
42 回	S 10 年	1935 年		65 回	S 32 年	1957 年		88 回	S 55 年	1980 年	22 回	111 回	H 15 年	2003 年	45 回	
43 回	S 11 年	1936 年		66 回	S 33 年	1958 年		89 回	S 56 年	1981 年	23 回	112 回	H 16 年	2004 年	46 回	
44 回	S 12 年	1937 年		67 回	S 34 年	1959 年	1 回	90 回	S 57 年	1982 年	24 回	113 回	H 17 年	2005 年	47 回	
45 回	S 13 年	1938 年		68 回	S 35 年	1960 年	2 回	91 回	S 58 年	1983 年	25 回	114 回	H 18 年	2006 年	48 回	
46 回	S 14 年	1939 年		69 回	S 36 年	1961 年	3 回	92 回	S 59 年	1984 年	26 回	115 回	H 19 年	2007 年		
47 回	S 15 年	1940 年		70 回	S 37 年	1962 年	4 回	93 回	S 60 年	1985 年	27 回	116 回	H 20 年	2008 年		
48 回	S 16 年	1941 年		71 回	S 38 年	1963 年	5 回	94 回	S 61 年	1986 年	28 回	117 回	H 21 年	2009 年		
49 回	S 17 年	1942 年		72 回	S 39 年	1964 年	6 回	95 回	S 62 年	1987 年	29 回	118 回	H 22 年	2010 年		
50 回	S 18 年	1943 年		73 回	S 40 年	1965 年	7 回	96 回	S 63 年	1988 年	30 回	119 回	H 23 年	2011 年		
51 回	S 19 年	1944 年		74 回	S 41 年	1966 年	8 回	97 回	H 1 年	1989 年	31 回	120 回	H 24 年	2012 年		
52 回	S 20 年	1945 年		75 回	S 42 年	1967 年	9 回	98 回	H 2 年	1990 年	32 回	121 回	H 25 年	2013 年		
53 回	S 20 年	1945 年		76 回	S 43 年	1968 年	10 回	99 回	H 3 年	1991 年	33 回	卒業年				卒業年

卒業年一覧表